

第3学年1組 国語科学習指導案

平成30年2月13日（火）1校時

1. 単元名 本で調べて、ほうこくする文章を書こう「ことわざについて調べよう」

2. 単元の目標

- ・ 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができる。
(書く能力)
- ・ ことわざの意味や使い方を理解することができる。
(言語についての知識・理解・技能)

3. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・ ことわざに関心を持ち、本や辞典を使って調べようとしている。	・ 本や辞典を使って、ことわざについて調べ、分かったことをカードに記録している。 ・ 報告書の型に沿って、調べて分かったことや考えたことを、事例を示しながら、文末を統一して書いている。 ・ 書いた文章について、内容を確認めたり、より分かりやすい表現に改めたりしている。	・ ことわざについて辞典などを使って調べてその意味を知り、語句や表現を増やしている。

4. 学習の基盤

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領国語の内容 B 書くこと (1) ア「関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること」ウ「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」を大きなねらいとしている。

「ことわざ」には、日頃よく耳にするものから初めて接するものまで、色々なものがある。そこには、昔から昔から人々が伝えてきた物事の道理、歴史的事実、教訓、人の本質などが盛り込まれている。ことわざや慣用句について学ぶことは、日本文化の基底を形作

ってきた民衆の生活と生き方を学ぶことになる。そこには、現代社会で失われつつある有用な価値観や处世術などが多く含まれている。

こうした言葉に触れ合うことは、当時の人々の思いについて知ることだけでなく、ユーモアや皮肉などの表現そのものの面白さを感じることに繋がる。もっと知りたい、という児童の意欲にそのまま繋がっていくと考える。ことわざや故事成語を用いることは、本単元でねらいとしている「関心のあること」や「書こうとすること」といった意欲に繋がりがやすく、本単元での学習に適している。

(2) 指導観

本単元では、文献調査による報告書を書くという言語活動を設定している。報告書の題材を決め、実際に書く活動の全てを個人にさせることは負担が大きくなると考えられる。本単元の最後に「書けた」という達成感どの児童も感じることができるよう、本単元では3～4人のグループ活動を要所で取り入れ、課題をクリアできるようにしたい。

第一次では、ことわざカルタ遊びを通して、ことわざについて慣れ親しむ活動を行う。カルタは、意味が書いていない50音に基づいた物を各グループ分用意し、どの児童もじっくりとことわざに触れ合えるようにする。読み手は最初に教師が行うが、カルタ遊びに慣れてきた段階で児童に委ねる。児童が読み手になることで、「聞く」活動が、「読む」活動へと変わっていく。そうすることで、文章を解釈しようとする姿が少しずつ加わると考える。児童の「このことわざってどういう意味だろう。」という考えを引き出し、実際に調べていく活動を行うことで、文献調査（ひいては報告書を書くこと）への意欲付けとしたい。

第二次では、報告書の題材決定と文献調査を行う。ことわざカルタを特徴ごとに分類し、共通点や相違点などをつかむ。ことわざについての理解が深まるよう、二時間に分けて行う。一時間目では主に「出てくる物」に、二時間目では主に「意味や表現」に視点を当てて分類する。こうすることによって、同じことわざでも複数の特徴でグループ分けできることに気付けるようにする（例：「猿も木から落ちる・豚に真珠」は生き物 「猿も木から落ちる・河童の川流れ」は似た意味に分けられる等）。その後、グループごとに決めた特徴をもとに文献を調べ、集めて、オリジナルのことわざカルタを作る活動を行う。第二次のまとめでは、オリジナルのカルタを使って各グループで遊ぶ活動を行う。お互いが読み合うことを意識した上で、丁寧な字でカルタ作りをさせていきたい。

第三次では、報告書の構成、記述、推敲を行う。第二次に引き続き、グループでの活動とする。他のグループがどのようなオリジナルかるたを作ったのかを見てみたいという思いをきっかけにし、この際に初めてことわざ報告書を書こうというめあてを児童と作り上げる。ことわざ報告書は「調べた目的やきっかけ」、「調べ方」、「調べて分かったこと」、「考えたこと」や「調べた本」などの組み立てを考えて書いていくことになっているが、構成や文章表現は、教師だけでなくグループでも助け合いながら行っていく。選ぶことわざや考えたことなどは個別で書くことを推奨するが、グループ同士で助け合ってもよいことを

伝えることで、児童が安心感を持って取り組めるようにしたい。

第四次では、報告する文章を実際に友だちに読んでもらい、報告したいことが伝わったのか感想をもらい、単元の学びの成果を実感できるようにしていく。

本時は、全14時の5時間目（第二次の3時間目）にあたる。グループが決めたそれぞれの特徴を持つことわざを集めて、オリジナルのことわざカルタを作る時間である。ここで用いることわざカルタには、「ことわざ」「意味」「筆者」「出版社」「発行年」を書く欄があり、情報カードの意味を成すものとする。また、お互いが推敲する活動を行うことで、意味などを確かめるのに役立つことを実感できるようにする。グループで助け合いながらカルタを作る時間とすることで、個人思考や文章記載が困難な児童も達成感を持てるようにしたい。

（4）研究との関わり

本校では、「確かな学力を身につけ、生き生きと学ぶ児童の育成～学校図書館活用教育の充実を通して～」を主題にして研究を進めている。「課題を追求するために進んで情報を活用する児童」「調べたことをもとに、自分の思いや考えを自分の言葉でまとめ、豊かに表現する児童」の育成をめざし、①単元の導入の工夫 ②情報の分類・整理・選択に重点を置いて授業づくりに取り組む。

①単元の導入の工夫

- ・単元の導入で、ことわざカルタをして遊ぶ。ことわざの意味を知りたいという思いを引き出し、文献調査（ひいては報告書を書くこと）への意欲化を図る。

②情報の分類・整理・選択

- ・グループ活動を行うことで、どの児童も分類・整理・選択を相談し合いながら行えるようにする。

5. 単元計画（全14時間 本時 5 / 14 ）

次	時	児童の主な活動	評価			
			関 心	書 く	言 語	主な評価基準（評価方法）
1	1	・ことわざカルタで遊ぶ。	○			・ことわざに関心を持ち、進んでカルタ遊びをしている。（行動観察）
	2	・ことわざカルタの意味を調べる。			○	・国語辞典や本を利用して、ことわざやその意味を調べている。（観察・カード）

2	3	・ことわざを特徴ごとに分類する。 (特徴：出てくる物)		○	・ことわざを特徴ごとに分類し、共通点や相違点について考えている。(発言、ノート)
	4	・ことわざを特徴ごとに分類する。 (特徴：表現や意味)		○	・ことわざを特徴ごとに分類し、共通点や相違点について考えている。(発言、ノート)
	5 本時	・グループが決めたそれぞれの特徴を持つことわざを集めて、カードに記録する。		○	・同じ特徴をもつことわざを集め、意味を調べ、カードに書き出している。(カード)
	6	・増えたことわざカルタで遊ぶ。		○	・カルタ遊びをしながら、その意味を確認している。(行動観察)
3	7 8	・報告する文章の構成について考える。		○	・報告書の構成を理解している。(ワークシート)
	9 10	・取材した材料や文章の構成を考えて、報告書の下書きを書く。		○	・報告書の構成をもとにして、記述している。(ワークシート)
	11 12	・下書きを読み合って推敲し、清書をする。		○	・推敲した下書きを生かして、清書の記述をしている。(ワークシート)
4	13 14	・単元の学びが実感できるように、ことわざ報告書で報告し合い、感想を交流する。		○	・友だちのことわざ報告書の内容や編成について、気づいたことをメッセージカードに書いている。(ワークシート)

6. 本時の学習 (5 / 14)

(1) 目標

同じ特徴をもつことわざを集め、意味を調べ、カードに書き出すことができる。

(書く能力)

(2) 展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援と評価(☆)
1. 本時の学習のめあてを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> グループオリジナルのことわざカルタを作ろう。 </div>	・あらかじめ、どの特徴でカルタを作るかということを決めさせておくことで、カードに書く時間を十分に確保できるようにする。

<p>2. 国語辞典やことわざ辞典を使って、グループでことわざを集めてカルタに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・辞典等を用いて適切に調べることができるよう、目次や索引を参考にすることで調べやすくなることを最初に確認する。 ・意味の解説が詳しいもの場合は、教師が助言をしながらカルタに入るようまとめさせる。 <p>☆同じ特徴をもつことわざを集め、意味を調べ、カードに書き出している（カード）</p>
<p>3. それぞれの集めたことわざカルタをグループ内で読み合い、交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ことわざの理解を深めたり、互いの成果を認め合えたりできるよう、お互いにオリジナルことわざカルタを読み合う。
<p>4. 次回への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回にオリジナルことわざカルタで遊ぶことを伝え、意欲付けを行う。

(3) 視点

グループでの活動は、全ての児童がねらいを達成するうえで有効な手立てであったか。

(4) 評価規準

十分満足と判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とされる児童への指導の手立て
同じ特徴をもつことわざを集め、意味を調べ、複数のカードに意味を写している。	同じ特徴をもつことわざを集め、意味を調べ、カードに意味を写している。	書くのが困難な児童へは、一緒に本を見ながら、意味が書いてある部分を確認して見つけさせる。